



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三橋 輝夫 様 共同住宅 新築工事	階数	地上10F
建設地	横浜市港北区新横浜1丁目25-8、-9、-10、-18、-20	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 竣工	評価の実施日	2020年2月20日
敷地面積	673 m ²	作成者	久我 浩明
建築面積	267 m ²	確認日	2020年2月20日
延床面積	2,226 m ²	確認者	久我 浩明

外観パース等

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	・道路に面して植栽することにより良好な景観を形成した。	
その他		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・化学汚染物質を放散しない材料を使用した。 ・屋根、外壁に断熱材使用とし、窓は複層ガラスを使用することにより外皮性能の向上に努めとめた。	・階高さにゆとりのある空間とした。	・庇を空間を設けることにより、都市空間の活動上のアメニティ向上に貢献した。 ・敷地内の風の通り道を確保した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(~)を示し記述してください。

建物名称 三橋 輝夫 様 共同住宅

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **5**

省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **56** %削減



一次エネルギー消費量基準	適合
外皮基準	適合

受付日 2017年5月10日

誘導基準

エネルギー対策 (建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用 設備システムの高効率化 効率的運用)
屋根、外壁に断熱材使用とし、窓は複層ガラスを使用することにより外皮性能の向上に努めとめた。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 **3**

室内環境対策 (温熱環境対策 光環境 空気質環境)

有効な採光、通風が確保できるようにした。

機能性対策 (機能性 知的生産性向上の取組)

室外環境(敷地内)対策 (敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防 災】 **3**

耐用性・信頼性 (耐震・免震 部品・部材の耐用年数向上 信頼性)

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **2**

室外環境(敷地内)対策 (生物環境 まちなみ・景観 地域性への配慮)

道路に面して植栽することにより、良好な景観を形成した。

庇を空間を設けることにより、都市空間の活動上のアメニティ向上に貢献した。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <集合住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(~)を示し記述してください。 建物名称 三橋 輝夫 様 共同住宅

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 2

省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 8 %削減



一次エネルギー消費量基準	適合
外皮基準	-

受付日 2017年5月10日

エネルギー対策 (建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用 設備システムの高効率化 効率的運用)
屋根、外壁に断熱材使用とし、窓は複層ガラスを使用することにより外皮性能の向上に努めとめた。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 4

室内環境対策 (外皮性能)

断熱等性能等級 等級4 (相当)

T2以上のサッシを使用。

健康・安心対策 (健康対策 防犯対策)

化学汚染物質を放散しない材料を使用した。

その他の対策 (自然材料・通風の工夫など)

工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防 災】 3

耐用性・信頼性 (耐震・免震 部品・部材の耐用年数向上 信頼性)

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 2

室外環境(敷地内)対策 (生物環境 まちなみ・景観 地域性への配慮)

道路に面して植栽することにより、良好な景観を形成した。

庇を空間を設けることにより、都市空間の活動上のアメニティ向上に貢献した。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入